

世界連邦

Newsletter

2015年 11月28日
第632号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央マンション 303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter : wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100 円 (年 6 回 奇数月 1 回 28 日発行)

戦後 70 年 世界連邦日本大会 2015 in 綾部に 850 人 盛会



写真提供、人類愛善会 奥脇俊臣

第32回世界連邦日本大会 in 綾部が10月31日、綾部市の京都府中丹文化会館で開催され、850人以上が参加した。後援は外務省・文部科学省・京都府・京都府教育委員会・報道各社。大会テーマは「いま、一つの世界を」。開会前の会場では、市制65周年を迎える綾部市紹介のDVDが上映された。

オープニングでは、今年4月に開校した綾部市立上



林小・中一貫校の児童・生徒52名による太鼓（二王太鼓と秋葉太鼓）と歌（ミュージカル「アニー」の主題歌「トゥモロー」と世界連邦の歌）が披露された。

開会行事では、今大会の主催を代表して中野寛成運動協

会会长代行、国会委員会より横路孝弘氏（会長）、谷垣禎一氏（顧問）、江田五月氏（顧問）が挨拶し、人類愛善会総裁の出口紅・大本教主や国会委員会の阿部知子衆議院議員など、来賓・関係者が紹介された。また WFM 本部のビル・ペイス専務理事のビデオレターが紹介された。

＜中野寛成会長代行＞ 世界連邦運動のメッカとも言える綾部市で記念すべき年の日本大会が行われるのは喜ばしい。このたび日本は国連の11回目の非常任理事国となった。これは世界最多である。国家と個人のエゴイズムを排する世界連邦が今こそ必要であり、それを日々の活動の判断基準にしてほしい。

＜横路孝弘会長＞ 国会委員会は1949年に創設、現在は超党派102名の議員で活動している。前回の大阪大会で山崎善也市長からイスラエルとパレスチナの子どもの交流について聞いて大変感動した。ユネスコ憲章前文にあるように、戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

＜谷垣禎一顧問＞ このこじんまりとした綾部の地で、世界連邦の最初の自治体宣言がなされ、戦後70周年の大会も行われている。また、中東和平プロジェクトもこの地から始まった。ここには何かそういうものを生み出すエネルギーがあるはずだ。それを感じてほしい。

＜江田五月顧問＞ 世界連邦国会決議が10年前に衆議院でなされたが、参議院ではまだである。今年は節目の年だったが、国会内がゴタゴタし、決議できなかつたことをおわびしたい。来年こそ参議院で決議したいと思う。



続いて世界連邦小中学校ポスター作文コンクールの綾部市における優秀作品の表彰が行われ、最優秀作品「芽吹け、平和の種」を豊里中学校3年生の朝野晃生さんが朗読した。



山崎善也綾部市長・
大会実行委員長

紹介がなされ、社会の関心が刹那的な心地良さに流れてしまい、人類が伝えるべき理想への関心が薄くなっていることへの憂慮が述べられた。

大会実行委員長の山崎善也綾部市長（自治体協会会長）より、昭和45年・平成2年などに日本大会が行われたこと、初めて自治体宣言を行なった10月14日を「平和と環境の日」とし、バラ園の造形を世界連邦のマークにしたこと、朝夕に平和のメロディーを流していることなど、綾部市についての

紹介がなされ、社会の関心が刹那的な心地良さに流れてしまい、人

類が伝えるべき理想への関心が薄くなっていることへの憂慮が述べられた。

休憩を挟んで明治大学野生の科学研究所所長、中沢新一氏の講演。事前の案内では「多数の世界、一つの世界」という演題であったが、「平和の富」という演題に変更、資本主義に代わるものとして「富本主義」を提唱し、ヒト・他の生物・地域のつながりの重要性と、新たな観点から世界連邦の可能性を論じた（講演要旨は2-3ページ）。

ついで元フジテレビ・アナウンサー山川建夫（ゆきお）氏により詩などの朗読が行われた。一つめは「インディアンが語るナチュラル・ウィズダム」、二つめは波多野一郎著「イカの哲学」から著者の分身である主人公がイカを見てインスピレーションを受けるシーンの抜粋である。講演テーマともつながる朗読を聞いて会場は感動に包まれた。

閉会行事では、宣言起草委員会の平口哲夫委員長より大会宣言文案が紹介され、会場の拍手をもって承認された（宣言文は3-4ページ）。最後に日下部禱代子推進協議会幹事長が別れを惜しみながら閉会の挨拶を行なった。

京綾部ホテルに会場を移して懇親会が行われ、和やかなひと時を過ごした。

（塩浜 修）

中沢新一氏が講演『平和の富』

今日は世界連邦運動について今までにはない角度から語ってみたい。私は戦後間もない昭和25年の生まれである。今日までの間、私も変わり、世界も変わった。制度は大体70年のサイクルくらいで変わるものだと思う。1917年のロシア革命で誕生したソ連もだいたい70年で崩壊した。戦後70年を経て、日本もシステム変動し、理念・価値が揺らいでいる中、それを見据えてこれから運動を組み立て直していくなければならない。

今、戦争も平和も「富」と関わっている。以前はイデオロギーとの関わりで戦争が起きた。資本主義対共産主義というイデオロギーの対立である。この対立の下で起きたキューバ危機は今の南沙諸島での対立などとは比べものにならないほど恐ろしいものだった。現在はアメリカの経済が中国の経済やアジアの経済と結びついている。戦争とは要するに相手の経済を破壊するものである。しかし、相手国の経済を破壊することは自分の経済を破壊することである。そういう意味で、第三次世界大戦のような形の戦争は起きず、全く違った形の戦争が多発することが予見される。環境も経済と深く関わっている。なぜCO₂が減らないかと言えば、経済成長という要請とぶつかるからである。これから平和学は富の問題を考えていかないと、運動が理念だけで空転してしまうだろう。



中沢新一氏

私は今までの「資本主義」に対して「富本主義」を提唱したい。「資」という字は「次の貝」と書く。お金の代わりに貝を使っていた時代があった。お金として使われる貝は元々生きていた貝の死がいであり、これを交換の道具として用いた。これに対し、「富」という字は象形文字で上に屋根があり、中に酒つぼがあることを表している。酒は米を微生物が

分解し、発酵させたものである。できた酒は家の中に人を招き込み接待することもできるし、余った酒を売ってお金に換えることもできる。つまり「富」は「資」も含んで「資」より広い概念である。酒は人の力だけでなく、微生物などの生命体と一体になってつくる。

「富」の屋根は一つの家であると同時に地域共同体を表している。資本主義が限界に達している今、微生物・水・空気・植物・動物を抱え込みながらつくりしていく富本主義が重要である。

綾部でグンゼを創業した波多野鶴吉さんの思想にも富本主義に通じるものがある。波多野さんは國の方針に従うことを示す「国是」に対し、地域のつながりを重視し、その方針に従うことを示す「郡是」を提唱し、それを社名とした。

金を増やすことだけに集中すると、死んだ貝だけを集めることになってしまう。製糸工場のある地域には桑が育ち、カイコが育たなければならない。そのためには水や太陽も必要である。織物を取り出す部分だけでなく水や太陽・桑・カイコをも一体として考えた。また、女工さんの宿舎、夜間学校などを充実させ、仕事を通して全人格的に成長してもらうことを考えた。女工さんを単なる生産のための労働力としてとらえるのではなかった。ここにはロバート・オーウェンが提唱した理想の工場や賀川豊彦の思想に通ずるものがあった。国営工場では、こんなことは考えられなかつた。生産して利潤を生むことは必要だ。そうしないと組織はつぶれてしまう。しかし、利潤のことだけを考えて人間が、死んだ貝のための歯車になつてはならないのだ。

国是だけをもとにして動くと、世界はお金のために動く形になってしまう。学校で教わる歴史でも国是や権力者を中心に考えてしまうが、これは歴史の表面だけに過ぎない。国是と郡是は相反しながらも補完しあう。日本の豊かさは、厚い百姓の世界が地域の屋根のもとにあり、植物・動物・水・空気とのつながりを大切にするという郡是があつたからだ。

地域から多様な声（人間以外も含まれる）を取り入れる事が必要である。波多野さんがグンゼを創ったことには、大変大きな思想的な意味が孕まれていたと思う。

波多野さんの孫の一郎さんは特攻隊員だった。彼の書いた『イカの哲学』には重要なことが書かれている。人間中心に考えてはならない。何千何万のイカをみることで、実存を感じた。イカの目からこちらをみたときにどんなことがあるのか、戦争が終わり、日本が平和のことを考えなくてはならない時に、人間以外の視点で人間を捉えることの重要性を感じた。他の生命体の視点を取り入れられた時、私たちの社会が平和を取り戻せるのではないか、という思想を持っていた。

出口王仁三郎氏の写真には母親がモンペを着て農作業をしている様子が出ている。地域に根差し、農作業を行い、地域に生きてそこを豊かにしていくことの尊さを描いている。そして、出口氏の焼き物などの芸術作品には、人間の世界よりもより広い宇宙へ自分を開いていき、そのために狭い自分を解体していくという思想が表れている。

こういった思想が綾部から出ていることに皆が誇りを持って欲しい。

戦後70年の大会がここ綾部で行われていることは大きな意味がある。綾部のような地域同士のネットワークを形成してゆく時に初めて、国とは違う、国是を超える、民主的な思想や現実の経済システムを構築してゆくと思う。それをベースに考えた時に、国連を超えていく世界連邦が考えられる。国同士の連盟関係、国連が抱えている困難を見てみると、国是をベースとすると、国際社会が抱えている問題は解決出来ないのではないかと思う。ここは日本の胎動の中心地であり、日本を変えていける聖地になると思う。

（要約 塩浜 修）

第32回世界連邦日本大会宣言文

本年は戦後・被曝、国連創設70年に当たります。この間における国連の実績は評価に値するものですが、今なお各地で相次ぐ紛争・テロ、さらには地球規模の環境破壊や災害の増加、飢餓・貧困など、現在の国際社会の仕組みでは対応し切れない課題が山積しております。

私たちはこれらの課題に対応するため、地球規模・世界規模のガバナンス、すなわち「世界連邦」の創設を目指しています。すでに私たちは国際刑事裁判所の創設に成功し、国際連帯税や国連議員総会の理念を普及させるなど、国家を超えたシステムを一つずつ創りあげて世界連邦の実現に近づくよう努めています。

日本は政府が世界連邦実現への道の探究に最大限の努力をすべきであるという国会決議をした唯一の国です。私たちは政府がこの決議に従って具体的行動を起こすことを求めます。

今大会では、基調講演「平和の富」を踏まえ、私たちは、平和や地球的諸課題と経済問題との関わりへの意識を新たにするとともに、国家と地域の役割に思いをいたし、地域ネットワークの創出が国連を超えた世界連邦の可能性を創ることを再確認しました。また、次代を担う子どもたちの平和・環境や国内外の諸問題に対する率直な思いに接することができました。

今回の開催地・綾部市は日本で初めて世界連邦宣言を行なった自治体です。世界連邦運動の原点ともいえる地で、戦後70年目の大会に臨んだ私たちは、この伝統ある運動を見つめなおし、人類が紛争を武力で解決する時代から脱却するために、私たち一人ひとりができるることは何かを積極的に考え、行動していきます。

以上、宣言します。

2015年10月31日

第32回世界連邦日本大会

ニューヨークでWFM理事会開催



11月4日から7日まで、アメリカ、ニューヨークの国連前のチャーチ・センターでWFM理事会が開催され、世界連邦運動協会(WFM Japan)から、阿久根武志事務局長・国際理事が参加した。

議題の中で大きくとりあげられたのが、COPLA(Corte Penal Latinoamericana)である。COPLAとは組織犯罪に対するラテンアメリカとカリビア地域の法廷である。これからつくろうとしているもので、まだ実体は伴っていないが、国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約にもとづき同機関を創設しようとしている。これは発展途上にあるラテンアメリカ諸国において、組織犯罪が問題になっているからである。

もう一つ、これから重要なのは、次の国連事務総長を民主的に選出せよという”1 for 7 billion” キャンペーンである。選出過程を透明化、民主化して新しい事務総長を決めるべきだというこのキャンペーンは今後脚光を浴びることとなる

だろう。

国際刑事裁判所ローマ規程については、パレスチナの批准を歓迎し、加盟国をさらに増やし世界法による世界平和を目指すことが確認された。

また国連議員総会創設プロジェクトについてはアンドレアス・ブメル同キャンペーン事務局長が、今年も行われたグローバル・ウィーク・オブ・アクションにひきつづき、各国で外務省や国会議員などにアプローチするよう呼びかけた。

2日目には歴史家のマヌ・バガバン氏による講演が行われ、ガンディとネールについて多く語った。

3日目にはロイド・アクスワージー会長がグローバル・セキュリティ、法の正義、ガバナンスについて語り、ビル・ペイス専務理事、フェルナンド・イグレシアス議長をはじめて討議した。

日本での活動に関して阿久根国際理事は、核廃絶やグローバル連帯税、小型武器などの課題毎に他のNGOなどとシンポジウムやディスカッションをして取り組んでいることを紹介した。

会場となったチャーチ・センターはかつてWFM-IGPが入居していたビルで、国連ビルの目の前にある。WFM本部である国際事務局は数ブロック離れたところにあり、国際刑事裁判所や、「保護する責任」などそれぞれのスペシャリストが活動している。今回の会場はマンハッタン内の都心であったので、国連ビルへ見学に行くにも移動はスムーズであった。

ティータイムのときビル・ペイス専務理事に、世界連邦運動(WFM)は世界政府を目指すのかと質問すると、そうではなくて国連を改革・強化すると述べ、これまで通り国際刑事裁判所設立など、平和につながるひとつひとつの仕組みをつみあげる機能主義

的アプローチを取ることを確認した。

WFM 理事会には各国から40名ほど参加し、ネットで会議に参加するものもいた。活動のための資金をどう調達するか、ファンドレイジングに関して昼夜みに各国のやり方をお互いに披露し、知恵を共有することを確認した。決議文ではロボット兵器を使わないことを求めることが採択された。WFM 理事会自体の運営に関しては、より民主的に多くの人が参加できる仕組みを模索し、来年その方針を決めることが決められた。

今回、それぞれのプロジェクトの専門家と直接話し合うことができて、信頼関係が深まった。スカイプや SNS を用いて、必要に応じて意見交換ができるようになる。世界中の人と平和について語り、具体的に何かに取り組めるのは素晴らしいことだと、あらためて思った。

会員の皆さんも国連議員総会創設キャンペーンや「1 for 7 billion」など関心のあるプロジェクトがあれば今後参画していただけるとありがたい。

(阿久根 武志)



世界連邦の実現に向けて（その2）

世界連邦運動協会副会長 萩野忠則

3 世界連邦実現の期待は日本政府にかかる状況にあります



日本では明治3年の小野梓の『宇宙内合衆政府論』に人類愛に基づく世界連邦の考えが見られ、その同志であった尾崎行雄は昭和20年12月に当時の議会に『世界連邦に関する決議案』を出しました。占領下の日本で、その案は審議未了になりました



が、**小野梓**を継いだ世界連邦運動協会(当初の名称は世界連邦建設同盟)や**尾崎行雄**本国会委員会、世界連邦宣言自治体全国協議会、世界連邦日本宗教委員会などによって運動が進みました。運動は、広島・長崎の原爆被害の悲惨を目のあたりにしている日本国民の戦争廃絶への情熱と、核兵器廃絶の可能性は世界連邦実現の他にはないというアインシュタインや湯川秀樹らの指導の下に、日本人口の八割を超える自治体の世界連邦平和自治体宣言を達成し、2005年には衆議院で「政府は日本国憲法の掲げる恒久平和の理念のもと、唯一の被爆国として世界のすべての人々と手を携え、核兵器等の廃絶、あらゆる戦争の回避、世界連邦実現への道の探究など、持続可能な人類共生の未来を切り開くための最

大限の努力をすべきである。」という文言を含む決議を成立了。

世界の世界連邦運動(WFM)はニューヨークの国連本部の近くに事務所をもち、国連の経済社会理事会に助言資格をもつカテゴリーIIのNGOとして活動しています。その活動の著しい成果は国際刑事裁判所(ICC)成立への貢献です。ICCは大量虐殺、人道に対する罪、侵略等の個人を起訴・裁判・判決できる裁判所で、これを成立させたローマ規定は世界法のモデルと言われ、国連憲章の成立に匹敵する成果と言われています。WFMには日本の世界連邦運動協会をはじめ世界の15の団体が所属しており、12の団体と連合しています。しかし、このWFMが直ちに世界連邦実現事業に手を打てる状況にはないようです。2011年の世界連邦日本大会に講師として来日したWFM専務理事のビル・ペイス氏はWFMとしての計画を語らず、世界連邦実現の具体化の期待は日本にかかると述べました。日本には国会決議があり、元総理を会長とする組織や超党派の国会議員の組織があるからだというのでした。



地球環境の刻々の悪化、中国やロシアの急速な軍拡などを見ると、世界連邦実現の必要は焦眉の急です。この時に日本にかかる期待には、人類共生の成否を分けるほどの重みがあります。

本部と支部の主な動き

10月 31日 世界連邦日本大会 綾部市(京都府・中丹文化会館)
11月 4-7日 WFM 理事会 NY 国連チャーチセンター
11月 14日 石川県連合会「秋の講演会」 講師：世界連邦運動協会会長代行 中野寛成氏
11月 20日 世界連邦・北海道 女性会員の集い

11月 28日 世界連邦文化教育推進協議会大会 同名誉顧問「海難1890」監督田中光敏氏講演・上映会 T・ジョイ京都
12月 4日 世界連邦懇談会 本部
12月 4日 第二回執行理事会 衆議院第二議員会館

シンポジウム ピケティ「21世紀の資本」とグローバル・タックス ～行き詰まる資本主義、日本の格差・貧困、国際課税への提言～



11月7日、青山学院大学9号館においてグローバル連帯税フォーラム（世界連邦運動協会も加盟）・民間税制調査会共催、（特活）日本リザルツ協賛によるシンポジウム“ピケティ「21世紀の資本」とグローバル・タックス～行き詰まる資本主義、日本の格差・貧困、国際課税への提言～”が行われ、約190名が参加した。

青山学院大学学生の司会で始まり、金子文夫 グローバル連帯税フォーラム代表理事・横浜市立大学名誉教授が挨拶とともにシンポジウムの趣旨を説明した。

橋木俊詔 京都大学名誉教授により、「『21世紀の資本』と世界的な資産税の可能性～日本の貧困・格差問題を踏まえて～」というテーマで基調講演が行われた。橋木氏は、15年ほど前、まだ「格差社会」という言葉が用いられず、むしろ「一億総中流」と言われていた時代に一億総中流の時代が終焉を迎えることに言及していた。正に格差研究の一人者と言えよう。

この日の講演で橋木氏は相対的貧困率を国際比較し、他の先進国と比較して日本の貧困率が極めて高いことを指摘。

$r > g$ 、つまり、資本による利潤が労働による利潤を上回る以上、富裕層はますます潤うことをピケティが実証した。

日本における格差は最低賃金が低いこと、教育の機会の不平等、女性の雇用についての不平等、税制の再分配効果が弱まっていること、税制に比べて指摘されることが少ないが、社会保険料が逆進的であることなどが原因であり、これらを改め

ることが重要であると指摘した。

続いて、民間税制調査会の共同代表である三木義一 青山学院大学教授より、政府・与党の税制改正に対する提言案としての「民間税制調査会版税制大綱最終答申」のエッセンスを紹介。税制を主権者である納税者の目線から分析し、提言する方針を述べた。特にタックス・ハイブンなどを利用した租税回避を放置すれば他の部分を改正しても効果が薄れるとして、グローバルエコノミーの時代に対応した税制の重要性を強調した。

休憩をはさんで上述の2名に加え、25万部超のベストセラー『資本主義の終焉と歴史の危機』(集英社新書)の著者の水野和夫 日本大学教授、グローバル連帯税や金融取引税問題の上村雄彦 横浜市立大学教授、そして気候変動・エネルギー問題の小西雅子 WWF気候変動・エネルギー・プロジェクト・リーダーを加え、「(気候変動や貧困問題等のための) グローバル・タックス、グローバル累進的資産税の可能性を探る」と題し、パネル討論を行なった。

水野氏は利子率の変動を世界史的に捉えつつ、コンビニが20mごとにあるという身近な例をあげながら資本への過剰投資の問題を指摘した。

上村氏は0.14%の金持ちが世界の金融資産の81.3%を所有している問題に触れつつ、グローバル累進課税・金融取引税の仕組みと政治的現状を解説した。

小西氏は温暖化対策の国際的な現状を解説。その中で温暖化の進行を食い止める「緩和」の分野には民間資金が集まりやすいが、防災対策への投資など、温暖化による影響を軽減するための「適応」には民間資金が集まりにくく、安定的で資金の予測もつけやすい公的資金をグローバル課税などで確保することの重要性を述べた。

参加者との間で多くの活発な質疑・意見交換が行われた後、田中徹二 グローバル連帯税フォーラム代表理事による閉会挨拶があり、シンポジウムが終了した。

(塩浜 修)

第37回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者山梨大会

平成27年11月5日、富士山の麓にある神道扶桑教元祠・北口本宮富士浅間神社およびハイランドリゾートホテル&スパにおいて、世界連邦日本宗教委員会（田中恆清会長：石清水八幡宮宮司）主催で、「第37回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者山梨大会」が開催された。会場を変えながら毎年開催されるこの大会は、神道、仏教、キリスト教、イスラム、教派神道、新宗教など宗派を超えて世界平和の祈りを捧げる催事で、世界連邦実現の可能性を象徴する取り組みであると考えられる。

今年のテーマは「日本の自然と世界平和」一終戦70年をむかえて一というものであり、約300名が参加した。午前10時より、神道扶桑教元祠において、宗派を超えて揃って平和の祈りを行い、さらに富士山に向かって数百メートル登った所にある北口本宮富士浅間神社を参拝。午後からはハイランドリゾートホテル&スパに会場を移し、世界連邦日本宗教委員会の田中恆清会長が「先人たちが宗教の垣根を超えて結束を固め来たために今日がある」と挨拶をした。

その後、歌人で宮内庁和歌御用掛を務める岡井隆氏が基調講演を行い、「和歌・漢詩・長歌・短歌など種類がある」という、「うた」の文化について詳しく説明をした。さらに田中会長の司会進行

で、岡井氏に加え、世界連邦日本宗教委員会常任顧問で本大会協力団体である神道扶桑教管長である宍野史生氏を交えた鼎談が行われ、「振興と日本文化」をテーマに議論が進められた。「日本人は何事にも柔軟に対応し、受け入れができる。そのことを日本人自身が伝えていくべきだ」「神仏や大自然に対する伝統的な考え方など、



日本人が日本的なものを見つめて世界に発信する事が必要」という意見が出された。

最後に、「私たちは先人から受け継いできた智慧を結集し、一日も早い真の世界平和と人類の幸福を実現するために、宗教者・信仰者として、一人ひとりが真剣に持てる力のすべてを捧げることを誓います」と締めくくられた大会宣言文を採択して会は終了した。

(谷本 真邦)

世界連邦運動こども新聞を京都・大阪府支部が発行



9月1日付で京都・大阪府支部が世界連邦運動こども新聞（発行人：税所涼子支部長）を発行した。世界連邦とは何か、世界連邦運動とは何かをこどもに向けて分かりやすく記述している。「伝えたいのは、平和の尊さと戦争の恐ろしさ」と明記しており、出前・平和学習

リポートについて詳述してある。「平和の種」を教材本としており、出前・平和学習の候補校を募っている。このこども新聞は京都・大阪府支部に問い合わせることで取り寄せが可能である。

連絡先：世界連邦運動協会京都・大阪府支部

〒530-0045 大阪市北区天神西町8-17 天満セントラルビル
2F 電話 06-6313-8010 こども新聞係。

(税所 涼子)

賀川豊彦関係団体連絡協議会

賀川豊彦関係団体連絡協議会の会合が11月6日、JA共済ビルの会議室で行われた。同協議会は世界連邦運動協会を含め、賀川豊彦氏の思想・活動に

関わる団体34団体が情報交換し、連携を深める趣旨で創設されている。

今回は20団体による27名が参加。各団体が簡単

に活動を報告した後、全国農業組合中央会経営指導部経営改善課の杉林剛課長により「改正農協法を受けて～これからの可能性と課題～」というテーマで学習会が行われた。

以下、塩浜個人の感想。

改めて賀川豊彦氏の活動の幅広さに驚かされた。共栄海上火災、生活協同組合、JA共済など、誰しも聞いたことがある企業があるかと思えば、賀川豊彦学会もあり、世界連邦運動協会や国際平和協会などの平和運動団体もある。

学会と言えば「物理学会」「憲法学会」「平和学会」など、科目や分野を冠した学会は数多いが、

「賀川豊彦学会」のように個人名を冠し、個人の業績・思想を追究する学会は本当に珍しい。(1)理念・理想の純粋さと(2)組織運営・資金調達の的確さを両立できる人・組織は中々いない。賀川豊彦氏はそれらを両立できた数少ない人物ではなかろうか。

この会合では賀川豊彦氏がノーベル賞候補としてノミネートされたことについての新聞記事が紹介された。「ノーベル平和賞」ではなく、「ノーベル文学賞」である。文学の面でも力を発揮している多才さに驚嘆するばかりである。

(塩浜 修)

映画「海難 1890」公開



世界連邦文化教育推進協議会の名誉顧問である田中光敏監督により日本とトルコの友好のために撮影された映画「海難 1890」が 12 月 5 日からロードショウとなる。

この作品は、1890 年に起きたトルコ軍艦の事故「エルトゥールル号海難事故」、そして

95 年後のイラン・イラク戦争のさなかに起きた「テヘラン邦人救出劇」の二つの史実を基にしており、日本人とトルコ人の勇気と誠意を映し出した真実のドラマの映画化となった。主演は内野聖陽。監督は「利休にたずねよ」でモントリオール世界映画祭最優秀芸術貢献賞を受賞した田中光敏氏。

田中監督は世界連邦推進日本協議会の六つの構成団体の一つである世界連邦文化教育推進協議会の名誉顧問。外務省後援、トルコ政府全面協力で完成した映画です。是非ご覧ください。

(阿久根 武志)

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか。応援してください。

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送または FAX にて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央マンション 303

TEL 03-6438-9442 FAX 03-6438-9443

普通会員／年額 5,000 円 維持会員／年額 10,000 円 賛助会員／年額 15,000 円

Newsletter で広告を募集しております。詳しくは本部までお問い合わせください。

編集後記 ☆ニューヨークでの WFM 理事会は大変意義深いものでした。今後の施策にうまく反映させたいと思います。(阿久根) ☆日本大会は講演をはじめ、戦後 70 周年にふさわしい素晴らしいものだった。「祈るだけでは変わらない」として自分にできることを探し求める中学生の作文にも感動した。(塩浜) ☆ 世界連邦日本大会 2015 in 綾部に参加したのは、大本の梅松苑、小塩完次氏が第 1 回講演をした日本キリスト教団丹陽教会、グンゼ博物苑などを初めて訪ねる機会にもなり、とても感銘深い体験でした。(平口)

編集委員会/委員長：阿久根武志、副委員長：塩浜修・平口哲夫、委員：荻野忠則・土田哲生